

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (四国)		-	-	-
		スーパー（人事）	お客様の様子	・改元に伴うゴールデンウィークの10連休で、旅行や観光の準備として消費が少し増えている。
		コンビニ（店長）	お客様の様子	・以前は「客は節約している」と感じていたが最近では少しは余裕があるようだ。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・来客数は少ないが、来てくれた客は割と高額な物でもすんなり買っていく。そういう購買行動を見ていると、景気は緩やかに良くなっているようだが、10月からの消費税引上げの影響で買っている感も否めない。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・4月は本来、春物や初夏物が売れ筋で、充実した月である。中旬ごろは、中だるみ感があり、売行きを心配したが、春休み頃からは、大型連休の事前の買いもあるのか、少し立ち直ってきた。その後、月末は期待値に届かなかったものの、普通の月に比べると、良い結果となった。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・受注動向としては、前年を上回る数字となっている。
		通信会社（技術）	販売量の動き	・新規に提供を開始したサービスの販売量が増加し、既存で提供しているサービスの販売量も増加している。
		商店街（代表者）	それ以外	・年度替わりで歓送迎会の時期ではあったが、統一地方選挙等の影響で、当初は今一つの状態だった。しかし、改元への期待感等で、消費者マインドは上昇している。
		商店街（事務局長）	販売量の動き	・気温が余り上がらず、アパレルを中心とした季節商材の動きが芳しくなかった。10連休や地元での国際芸術祭開催で月の後半は多くの人でにぎわったが、今春の生活必需品やサービス料金の値上げ、今後の消費税の引上げを見越して、消費者は絶対に手に入れたいと思う商品以外の購買に対しては大変消極的になっている。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	それ以外	・企業向けの法人商品は注文が少なかった。大型連休に合わせて、個人経営の小売店への開店祝い向け商品は売れた。しかし、予算以上の金額の商品は気に入っていても購入しない人がいたことは気掛かりである。
		百貨店（企画担当）	お客様の様子	・物産展は好調であるが、婦人服等のファッション系が伸び悩んでおり、余り状況は良くない。
		百貨店（販売促進）	販売量の動き	・観光、インバウンドは順調に推移しているが、まとめ買いは減っている。
		スーパー（企画担当）	単価の動き	・小型店の来店客数が厳しい。客は、一連の値上げで価格を比較して購入しているが、品ぞろえの弱い小型店への来店が伸びていない。
		スーパー（財務担当）	単価の動き	・客単価と来客数の前年割れが続いている。
		コンビニ（総務）	来客数の動き	・来店客数が前年割れとなる傾向が続いている。
		衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・ゴールデンウィークが長く、客が県外や海外に流出しているため、来客数が減少しており、売上は前年を5%ほど下回っている。休暇が長くなればなるほど売上は厳しくなる。
		家電量販店（副店長）	来客数の動き	・客単価は良いが、ゴールデンウィークはレジャーに出掛ける人が多く、来客数は減少傾向にある。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・4月は新年度のスタート月であるが、前期からの受注残もあり新車の登録台数は計画どおりの台数を確保できている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	来客数の動き	・10連休が始まり、県外客は増えているが、地元客は増えていない。

	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・客はそれなりに入っているが、宿泊が減って、宴会その他が増えている。販売量全体を3か月前と比較すると、当地の温泉本館の改築や各旅館の改築の問題があいまって、少し落ちている。
	都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・来客数はそこそこあるが、客単価はデフレから脱却していない。この業界だけかもしれないが、単価が全く伸びてこない。今後の景気を占う意味でも、余り良くない状況である。
	通信会社（営業部長）	販売量の動き	・主力商材の販売はそれほど減少していないが、高付加価値商品の売行きが減少している。
	通信会社（営業担当）	来客数の動き	・来客数が前年と比較してやや低調である。
	通信会社（支店長）	販売量の動き	・販売量に特段の変化は見られない。
	美容室（経営者）	お客様の様子	・特に変わりがない。
	設計事務所（所長）	単価の動き	・相変わらず、建築材料の確保や職人の手配等のコストが増加し、建築費が非常に高くなっている。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・実店舗は地域や規模にかかわらず、今後、どんどん右肩下がりになる。特に大型店は投資の効率性、人手不足、過当競争の三重苦の中でますます淘汰が加速化する。ネット業界も物流の問題が大きな課題となるが、実店舗の必要性は極小化されていくだろう。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・前年同月比マイナスとなっている。大型連休に備えて客が消費を控えている。また、この秋の消費税の引上げの影響や新年度になっての値上げ等が影響している。
	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	お客様の様子	・連休前に、駆け込みで読みたい本を買うような行動は特になく、店頭売り、外商売り共に、売上は上昇しなかった。
	百貨店（営業統括担当）	来客数の動き	・来店客数の減少が売上に影響している。特に衣料品が苦戦し、春や初夏の季節商材は低気温が影響し動きが鈍い。一方で宝飾品などの高額品は順調に推移している。
	家電量販店（店員）	販売量の動き	・販売数量、販売単価共に落ちている。
	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・3月末までの決算イベントが終わり、販売量が減少した。
	乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・販売台数は大きく軽自動車に傾き、乗用車の販売が落ち込んでいる。
	タクシー運転手	お客様の様子	・1月と比べると客足は悪い。外国船の入港等もあるが、バスツアーが多く、タクシー利用は1割あるかないか程度である。夜、昼どちらの状況も良くない。
	競輪競馬（マネージャー）	お客様の様子	・入場利用者数の減少傾向が続いている上に、消費を差し控える傾向が強くなり、全体的に消費金額が1～2割減少している。
	×スーパー（店長）	来客数の動き	・特価店が改装オープンすると、いきなり来客数に影響が出る。その影響の度合いは今までより強くなっているため、客は非常に価格に敏感になっているようだ。景気は上向いていないだろう。
	×コンビニ（店長）	来客数の動き	・依然として、来店客数、売上共に改善されず、購買力が弱い。
企業 動向 関連  (四国)		-	-
	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・全国的に受注が旺盛である。ゴールデンウィーク期間は9日間出荷が止まるため、在庫確保のための事前発注なのが、店頭での消費が旺盛なのかは分からない。5月は休日が多いため売上が落ちることも考えられ、4～5月トータルで判断する必要がある。ただ今年は気温が早くから上がっており、タオルへの関心も高くなっている。
	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注量が大幅に伸びている。特に4月は好調に推移した。10連休前の駆け込み生産もあったが5月の受注量を見ても好調を維持している。
	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・フェイスマスクの新市場開拓が少しずつ進んでいる。今後は今よりも少しずつ良くなっていくだろう。

	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・受注、販売量共に大きな変化はない。
	一般機械製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・地域にばらつきがあり全体としては変わらない。
	電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・製品ごとに増減はあるものの、出荷総量としては3か月前と比べおおむね同程度の状況である。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新年度になったが、具体的な受注計画が立てられない状態が続いている。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新年度に入り、手持ち仕事量は減少しているが、平成30年度の第4四半期に公共事業の業務発注があったため、例年に比べて、減少量は少ない。ただし、この時期は例年どおり売上が上がらない。
	輸送業（経営者）	取引先の様子	・大きな変化はない。
	輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・年度替わり直後の4月前半はやや低調に推移したが、大型連休直前の4月後半は、近年にない10連休の特需を見込んだ一時的な物量の増加が見受けられた。4月総取扱い物量は平年並みであり、景気の回復を実感できない状況である。
	輸送業（経理）	それ以外	・客の動向は、消費税の引上げ前の需要拡大に向け少しずつ上向きになっているが、ここ数か月は特に顕著な変化はない。ただし、燃油単価の微増が業績に影響を与えつつある。
	公認会計士	取引先の様子	・今月の各法人の決算書、試算表を分析をすると、前年とほぼ変わらない状況が続いている。
	農林水産業（職員）	取引先の様子	・卸売会社の卸売額は前年比90%から98%程度で、前年割れの会社が多く、100%を上回っている会社は少ない。また、売上以上に利益率は低下しており、赤字決算となる会社数は増える見込みである。現状の取引も、平年を下回った前年並みで、前年11月中旬から続く厳しい販売環境に変わりはない。
	化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・中国経済の影響で電子部品、化粧品関連製品の受注量が今年に入り減少しており、一向に良くなる気配がない。その他の分野は堅調に推移している。
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・大型太陽光発電の受注は計画の半分程度で推移している。バイオマス発電については、燃料が入ってこないという状況である。私個人は、景気は非常に悪いと感じているが、営業が努力して、やや悪い程度に持ち直している。
	金融業（副支店長）	取引先の様子	・改元や消費税の引上げの様子見か、全般的に動きが鈍い。
	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・昨今、銀行の不動産に対する融資がかなり厳しくなっており、今後も、その状態が続く可能性がある。
	x	-	-
雇用 関連 (四国)	人材派遣会社（営業）	周辺企業の様子	・ゴールデンウィークの大型連休等でサービス業界など関連した企業は景気が上向く。ただ、繁忙期対応に向けた人材が充足されていない現場の苦しい状況は変わらない。
	学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・前年と比較して、1か月ほど早いペースで新卒者の採用数は推移している。
	求人情報誌（営業）	求人数の動き	・求人数は引き続き多いが、ここ数か月で大きく変動していない。
	職業安定所（求人開発）	それ以外	・3月の有効求人倍率は1.64倍で、3か月前と比べて0.08ポイント減少しているが、6か月前と比べると0.09ポイント増加しているため、良くもなく悪くもない状況である。
	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・大型連休を控え求人数が減ってきており、特に電子機器関係の求人がなくなっている。製造業も現状維持か、減少傾向にある。
	民間職業紹介機関（所長）	それ以外	・現在の勤務先が県庁所在地にあるが、駅前のタクシー乗場で、タクシーを利用しようとする人が並んで列を作る光景を最近は全く見かけなくなった。バス等の公共機関を利用して、費用節減につなげているようだ。また、地方においては、タクシー利用が、ぜいたくであるという感覚を持っている面もある。

